

2009.11.19 福島県 集落活性化県民討論会

「中山間地域農業参画プロジェクト」から 学び・考えたこと

—二本松市東和地区西谷集落での取り組み—

国士舘大学文学部 3年 堀川 大輔
関根 悟
富塚 哲史

国士舘大学文学部 専任講師 宮地 忠幸

I. プロジェクトの主旨

「中山間地域農業参画プロジェクト」の目的

- 中山間地域農業・農村の現状の理解を深める
- 農業体験・農村での生活を体験

農業・農村・食糧生産と供給の現状と今後の方向性について学ぶ

Ⅱ. プロジェクトの経緯

- 宮地講師の大学院時代の調査地域であり、2008年度の宮地ゼミ実習地域
- 耕作放棄地の拡大に悩んでいる地域
- 西谷地区→直払い制度交付対象地域・・・
集落活性化の取り組みが模索されている地域

以上よりゼミの新たな学習の場、耕作放棄地の拡大防止、集落活性化を視野に入れた取り組みを、ゼミとして実施することに・・・

Ⅲ.西谷地区の概要

人口:158人

世帯数:39世帯

※専業農家:2戸

兼業農家:29戸

高齢農家:4戸

非農家:4戸

総面積:約231.3ha

※田:約25.9ha

畑:約52.8ha

山林:約116.1ha

耕作放棄地:約23.7ha



□ 第1図 対象地域の概要図

Ⅲ.西谷地区の概要



- 集落にある唯一の店「宍戸商店」

Ⅲ. 西谷地区の概要



□ 西谷地区における水田景観

IV. プロジェクトの内容

- 2～4月 :ゼミ生間の検討会
- 4月 :播種、水田の溝掘り
- 5月 :田植え、里芋の植付け、住吉神社祈
禱際、交流会etc・・・
- 7、8月 :除草作業、東和ロードレース大会運
営補助
- 9月 :稲刈り、交流会
- 10月 :学園祭での販売検討会、精米作業
- 11月 :学園祭での農産物販売



4月 播種を行う。

溝掘り

圃場整備がされていないため、手作業で水路を整備した。



4月 集落での取り組み検討会



5月 住吉神社祈禱祭



農家の方の指導による田植え



5月 里芋の植付け



5月 集落の皆さんとの交流会

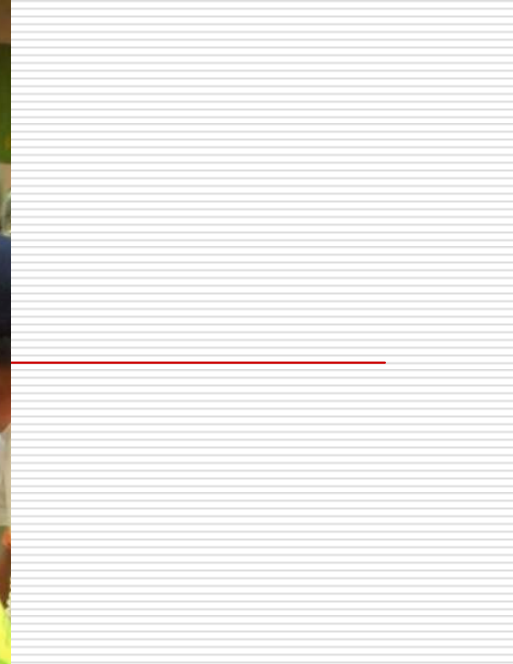


7月 除草・追肥作業



7月 里芋畑の除草作業





東和ロードレースの運営補助

8月 機械での除草作業







販売時必要なもの

おにぎり
 1. 味噌 (500g) (2袋)
 味噌 → 名産品より購入
 2. 醤油 (これは現物か?) (100g)
 3. しょうゆ (500g)
 しょうゆ → 1.8L x 2 (買込学生)
 4. 酒 → 西谷 ナツキ
 5. ホットプレート → 宮地セミ屋
 6. 炊飯の電釜

もち
 1. 大き目もち (100個)
 ① 西谷 → 西谷 茶屋 2階
 2. 砂糖 → 学生 1袋
 塩 (各袋) → 小袋
 3. 板いりもち (100個) 即日購入?
 4. (砂糖)
 5. 砂糖
 6. 材料 → 学生 4袋 x 25枚

10月 宮地ゼミ、西谷集落
 学園祭販売検討会

那米精許特 二のん

営業中

こたわり派の精米所
無洗米装置付

新時代システム(低温特)

こたわり1	こたわり2	こたわり3	こたわり4
-------	-------	-------	-------

特選 新時代システム(低温特) 低温乾燥した玄米を精米し、その旨味を最大限に引き出す。お米の風味が豊かになり、炊きあがりももちもちとした食感になります。お米の風味が豊かになり、炊きあがりももちもちとした食感になります。



脱穀した玄米を精米に



すべて民泊で行いました

11月 国士舘大学学園祭 宮地ゼミ、西谷集落ブース



販売終了後、西谷集落のみなさんと



握手をしてのお別れ



V. プロジェクトの成果と課題 農業編

□ 成果

- ・中山間での水稲作の意義と苦勞の一端を直に理解
- ・農業機械を導入する意味を理解
- ・耕作放棄地拡大の一因は作業の重労働さにもあると体感

□ 課題

- ・商品価値の高い作物の生産の検討
- ・来年度の作付規模の検討
- ・安定した収量を得る努力
- ・将来「協働」でのプロジェクトにしたい

V. プロジェクトの成果と課題 農村編

□ 成果

- ・民泊の経験により西谷集落の生活・風土を実感
- ・プロジェクトに対する「協力」⇒人情を感じた
- ・世代の異なる方々との貴重な交流の機会

□ 課題

- ・農村生活の更なる積極的な体験
- ・まだ旅行感覚⇒民泊先などでの家事の手伝い、行事などの積極的参加

V. プロジェクトの成果と課題 食料編

□ 成果

- ・食料安定供給の難しさを体験
- ・第一次産業の存在意義の再確認
- ・米を生産、消費することの意義
- ・西谷集落での食料自給率の高さ

□ 課題

- ・中山間地域での食料生産維持の必要性
- ・耕作放棄地拡大防止への学生からの意見

V. プロジェクトの成果と課題 その他

□ 成果

- ・主体的に参加⇒人間として成長
- ・社会、地域問題を直に学べた
- ・ゼミとして団結力が高まった
- ・社会と関わることでのゼミとしての価値が高まった
- ・農業、農家に対するイメージの変化

□ 課題

- ・プロジェクトの継続、その価値を高める
- ・活動に対しての経済的支援などの必要性
- ・取り組みへの革新性の必要性

VI. 「交流」を通じた地域振興の 可能性と方向性

1990年代以降 グリーンツーリズムへの関心が高まる。政策対象化

1992年

「新しい食料・農業・農村政策の方向」の中で「グリーンツーリズム」の推進が明記

1994年

農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の推進に関する法律

1998年

「21世紀国土のグランドデザイン」

「多自然居住地域の創造」が4つの戦略の一つとして提唱

←交流人口による都市農村の新たな関係性の構築が課題

1999年

食料・農業・農村基本法「都市と農村との間の交流の促進」が明記

2000年

食料・農業・農村基本計画

「農業における滞在型の余暇活動(グリーンツーリズム)の推進」が明記

日本のグリーンツーリズムの特徴(1)

イ 農業・農村体験の場としての農村

P.162 * 1 農山漁村体験ツアー受入れの期間

期間	回答市町村	割合 (%)
日帰り	211	60.1
1泊	74	21.1
2～3泊	48	13.7
1週間以内	5	1.4
1週間以上	5	1.4
不明	8	2.3
合計	351	

資料：(財)都市農山漁村交流活性化機構「滞在型グリーン・ツーリズム等振興調査」(2007年3月公表)

注：全国の1,834市町村を対象に実施したアンケート調査(回答率58.3%)

農林水産省編(2008)『平成20年度 食料・農業・農村白書 参考統計書』p.72より転載

日本のグリーンツーリズムの特徴(2)

図Ⅱ-122 農業経営体のグリーン・ツーリズムへの取組 (2005年、農業地域別)

(単位：経営体)

全国農業地域	貸農園・ 体験農園等	観光農園	農家民宿	農家 レストラン
全 国	4,023	7,579	1,492	826
北 海 道	280	328	57	79
東 北	525	839	224	160
北 関 東	220	978	63	55
南 関 東	759	1,192	42	62
東 山	349	1,389	377	67
北 陸	172	204	301	65
東 海	301	466	57	61
近 畿	679	681	175	70
中 国	228	517	42	46
四 国	112	187	21	25
九 州	368	770	115	124
沖 縄	30	28	18	12

資料：農林水産省「農林業センサス」

注：北関東とは栃木県、群馬県、茨城県、南関東とは埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、東山とは長野県、山梨県

農林水産省編(2008)『平成20年度 食料・農業・農村白書 参考統計書』p.72より転載

日本のグリーンツーリズムの特徴(3)

図Ⅱ-123 市町村における滞在型グリーン・ツーリズム等の取組

(単位：上段は市町村、下段は%)

		現在取り組まれている	今後取り組まれる予定である	現在検討中である	現在取り組まれていなく、今後も取り組まれる予定もない	不明	計
体験ツアー受入れの取組	市町村数	335	37	185	472	38	1,067
	割合	31.4	3.5	17.3	44.2	3.6	100.0
スクール開校の取組	市町村数	36	7	181	787	56	1,067
	割合	3.4	0.7	17.0	73.8	5.2	100.0
体験型修学旅行等の受入れの取組	市町村数	176	23	171	647	50	1,067
	割合	16.5	2.2	16.0	60.6	4.7	100.0
農山漁村型ワーキングホリデーの取組	市町村数	38	8	216	742	63	1,067
	割合	3.6	0.7	20.2	69.5	5.9	100.0
滞在型市民農園開設の取組	市町村数	58	12	247	693	57	1,067
	割合	5.4	1.1	23.1	64.9	5.3	100.0
空き家・民家の活用取組	市町村数	98	34	242	641	52	1,067
	割合	9.2	3.2	22.7	60.1	4.9	100.0

資料：(財)都市農山漁村交流活性化機構「滞在型グリーン・ツーリズム等振興調査」(2007年3月公表)

注：全国の1,834市町村を対象に実施したアンケート調査(回答率58.3%)

農林水産省編(2008)『平成20年度 食料・農業・農村白書 参考統計書』p.72より転載

日本のグリーンツーリズムの特徴(4)

- 日帰りの取り組みの多さ
- 都市(近郊)の地域で取り組みが相対的に盛ん
- 体験ツアーの受け入れ(新たな「ビジネス化」?)

西谷集落での体験、「交流」を通して 見えてきた取り組みの方向性(1)

- 農業・農村・食料生産と供給の現状を学ぶ場となった
- 組織運営を学ぶ場、コミュニケーションの場となった

この取り組みを永く継続するために…

西谷集落での体験、「交流」を通して 見えてきた取り組みの方向性(2)

- 取り組みの魅力を継続的に創造していくための努力
- そのための地域資源の発見、掘り起こしの必要性
- 取り組みを支える支援体制の構築



私たちの体験を

通した学びは

これからも

続きます・・・